



核実験が 遺したものの

核兵器を保有する国々は、自国の核戦力の破壊力と致死性を高め、また対立する相手に警告を示すために、1945年以降、世界各地で2,000回以上の核実験を行ってきました。

これらの実験は、大量の放射線を大気や海へと放出し、がんやその他の慢性疾患を広めてきました。実験場が閉鎖された後も、広大な土地が、何十年にもわたり人が住むことのできない状態のまま残されています。

広島と長崎への原爆投下のわずか3週間前、アメリカ・ニューメキシコ州において、アメリカ政府は「トリニティ」と名付けられた、世界初の核実験を実施しました。巨大な火球は砂をガラスへと変え、周囲の山々を照らし出し、放射性物質を含むキノコ雲を上空約12キロまで押し上げました。

この核実験の作業に従事していた人びとや周辺の地域社会に壊滅的な影響をもたらし、その影響は現在に至るまで続いています。

同様の被害は、世界各地にある60か所以上の核実験場においても見られます。オーストラリアやアルジェリアの砂漠から、カザフスタンの草原、太平洋の環礁に至るまで、風下や下流に暮らす人びとや、そこで働く人びとが、長年にわたり深刻な影響を受けてきました。

核実験場

核兵器は、アルジェリア、オーストラリア、中国、インド、カザフスタン、キリバス、マオヒヌイ(フランス領ポリネシア)、マーシャル諸島、北朝鮮、パキスタン、ロシア、トルクメニスタン、ウクライナ、アメリカ合衆国、ウズベキスタンにおいて実験が行われてきました。

大気中で行われた核実験は、1945年から1980年にかけて500回以上実施され、とりわけ深刻な影響をもたらしました。放射性物質を広範囲に拡散させ、その破壊力を合わせると、広島に投下された原子爆弾約2万9,000発分に相当します。

今日では、地球上に生きるすべての人が、こうした大気中核実験による放射性物質を体内に取り込み、病気のリスクを高めています。医師たちは、これらの過去の核実験によって、長期的には少なくとも400万人が、がんやその他の病気により早死すると予測しています。

水中および地下で実施された核実験もまた、長期にわたる健康被害や環境への影響を引き起こしてきました。

20世紀後半には、核実験の影響に対する世界的な懸念が高まり、各地で大規模な抗議運動が広がりました。これを受けて、1963年に部分的核実験禁止、1996年に包括的核実験禁止ができました。これらはいずれも、核実験の世界的な抑止に大きく寄与しています。

しかし、過去の核実験が人々の生活や地球の脆弱な生態系に及ぼした影響は、これからも何世代にもわたって続いています。国際社会には、このような破壊を二度と繰り返さないようにする責務があるだけでなく、すでに生じてしまった被害に対処していく責任もあります。

世界各地において、核実験の被害を受けた人々の多くは、その苦しみに対する補償をほとんど受けておらず、旧核実験場の環境修復の取り組みも著しく不十分なままです。いくつかの場所では、老朽化した施設がさらなる汚染のリスクを今なお引き起こしています。

放射能と人種差別

核実験に関する意思決定の背景には、しばしば人種差別的な考え方が存在していました。政府や植民地支配勢力は、先住民族を犠牲にしてもよい存在と見なし、彼らの聖なる土地を価値のない「遠隔地」として扱ってきたのです。

2017年、オーストラリアのアナンガ・ヤンクニチャジャラの女性であるカーリーナ・レスターさんは、国連において先住民族の連合を代表し、次のように証言しました。

「私たちの土地、海、コミュニティ、そして身体には、これら死をもたらす実験の影響が今も刻み込まれており、それはこれから先、どれほどの世代にわたって続くのか分かりません。」

彼女はまた、「より一層致死性の高い大量破壊兵器」を追求する過程で、権力者たちは先住民族を「モルモット」のように扱ってきたと述べています。先住民の同意が求められることはほとんどなく、ましてや得られることはなく、十分な防護が提供されることもありませんでした。

核実験が残した有害な遺産により、多くのコミュニティは伝統的な生活様式から切り離され、先祖代々の土地に戻ることも、何世紀にもわたって続けてきたように土地や海から生計を立てることもできなくなっています。



1971年、マオヒヌイのモルロア環礁におけるフランスの核実験。出典：フランス政府



カザフスタンにおけるロシアの核実験によって形成されたクレーター。出典：包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)

オーストラリア:核実験による失明

1953年、ヤミ・レスターさんが10歳のとき、イギリスはオーストラリア内陸部の彼の住む地域に近いエミュー・フィールドで核実験を開始しました。

彼は放射性降下物、いわゆる「黒い霧」が空一面に広がったことを覚えています。それは目に強い刺激を与え、やがて4年のうちに視力をすべて失うことになりました。

「ただ他の子どもたちと遊んでいただけでした。そのとき爆弾が爆発したのです」と彼は振り返ります。「音を覚えています。奇妙な音でした。大きい音ではなく、これまで聞いたことのないような音でした。同時に地面が揺れ、あたり一帯が動いているのを感じました。」

数時間のうちに、彼のコミュニティの人々は皆、体調を崩しました。「私たちは皆、嘔吐し、下痢をし、皮膚に発疹が出て、目も痛みました。」「年配者で亡くなった人もいました。」と、彼は語っています。

その後ヤミさんは、核実験によって被害を受けたオーストラリアのアボリジニ（先住民族）を代表する主要な活動家となりました。2017年に彼が亡くなった後も、その子どもたちが正義を求める闘いを引き継いでいます。

出典: ジェシー・ボイルン



カザフスタン:腕のない状態で生まれたアーティスト

カリブベク・クユコフさんは、旧ソビエト連邦最大の核実験場であったセミパラチンスクの近く、カザフスタンのイエギンディブラク村で育ちました。彼は幼少期、核実験が行われるたびに家具や食器が揺れていたことを覚えています。

彼が生まれる前、両親は自宅近くの丘に登り、空高く立ち上る巨大でまばゆいキノコ雲をよく眺めていました。

「住民らは、自分たちに対して行われていた行為の健康被害や壊滅的な影響について、まったく知りませんでした」と彼は振り返ります。

カリブベクは1968年、腕のない状態で生まれました。身体的な困難を抱えながらも、彼は足や口を使って絵を描く著名なアーティストとなりました。彼の作品の多くには、反核のメッセージが込められています。

「この地における私の使命は、自分のような人々が核実験の最後の被害者となるよう、できる限りのことをすることです」と彼は語ります。「これらの出来事が、地球上のいかなる場所でも、いかなる時にも繰り返されてほしくありません…私たちの空が清らかであり、子どもたちが健やかでありますように！」

1949年から1989年にかけて、ソビエト連邦はセミパラチンスクにおいて450回以上の核実験を実施しており、これは世界全体の核実験の約4分の1に相当します。



「恐怖」:カリブベク・クユコフさんの作品の一つ。

マーシャル諸島:放射能に汚染された環礁

1954年、ネージェ・ジョセフさんが7歳のとき、アメリカ合衆国はマーシャル諸島のロンゲラップ環礁にある彼女の自宅から約160キロの地点で、史上最大規模の核実験「キャッスル・ブラボー」を実施しました。

この爆発は予想をはるかに上回る規模となり、より深刻な放射能汚染を引き起こしました。空はオレンジ色やピンク色に変わりましたが、住民たちは何が起きたのか理解していませんでした。

数時間後、放射性の灰やサンゴの破片が雨のように降り注ぎ、人々の皮膚や水、食料を汚染しました。やがて住民たちは急性放射線症を示し始めます。

ネージェさんの髪は抜け落ち、環礁のほとんどの住民と同じ様にやけども負いました。

数日後、アメリカ当局は健康への深刻な影響を理由に、ロンゲラップの人々を別の環礁へ避難させました。しかし3年後、残留放射線の健康影響を調査する目的から、当局は住民に帰還を促しました。

当時、アメリカの政府関係者は次のように述べています。「この種のデータはこれまで得られたことがない。確かに彼らは西洋人のような、いわゆる文明的な生活を送ってはいないが、それでもネズミよりは私たちに近い存在である。」

ロンゲラップの人々にとって、この帰還は壊滅的な結果をもたらしました。がん、流産、死産、先天異常の子どもの誕生が相次いで発生したのです。

ネージェさんは放射性物質の蓄積により、甲状腺の摘出手術を受けざるを得ませんでした。彼女は、核実験以前の平穏な日々に戻ることを切望していました。

1946年から1958年にかけて、アメリカ合衆国はマーシャル諸島で67回の核実験を実施しました。「キャッスル・ブラボー」単独でも、その爆発力は広島原子爆弾の1000倍に達していました。

今もなお、この環礁は居住、農業、漁業のいずれにも適さない状態のままとなっています。



放射線の影響により脱毛と足のやけどを負ったネージェ・ジョセフさん。出典:アメリカ政府

その他の被害

核兵器の開発には、ウランの採掘から核廃棄物の処分に至るまで、さまざまな過程が含まれます。これらもまた、人びとの健康や環境に深刻な影響を及ぼしてきました。

核兵器の製造が始まる場所であるウラン鉱山では、廃棄物の残渣から生じる放射性物質や化学物質による汚染が、土壌や水系へと浸透し、労働者や周辺のコミュニティに被害をもたらしてきました。世界のどの鉱山においても、採掘終了後に完全な環境回復が実現された例はありません。

また、核兵器のためのプルトニウムを生産する原子力施設でも、放射能汚染が発生してきました。例えばイギリスのウィンズケール原子力発電所では、1957年に火災が3日間にわたって続き、放射性物質がヨーロッパの広い地域へと拡散しました。その結果、周辺地域のすべての農場の牛乳が廃棄されることとなりました。

さらに、1945年以降に数万発に及ぶ核兵器の製造によって蓄積された膨大な量の核廃棄物の安全な保管をめぐり、世界各地の多くのコミュニティが今もなお課題に直面しています。これらは、数千年にわたって危険な状態が続くとされています。



アメリカ・アリゾナ州での反核運動の参加者たち。出典：ジャック・コーエン＝ジョッパ



1954年、アメリカがマーシャル諸島で行った核実験により、放射線によるやけどを負った13歳のイロジ・ケベンリさん。出典：アメリカ政府

核実験による爆発で生じたキノコ雲。出典：アメリカ政府